

## 物と目を近づけて見る

弱視学級在籍のお子さんは、眼鏡やコンタクトレンズを使用していても、はっきりくっきりと見えるまでは矯正できていません。そこで、見る物(文字、挿絵など)を「拡大」することで判別できるようになります。拡大する方法として、拡大コピーをする、ルーペや単眼鏡を使う、タブレットで拡大表示するなどさまざまありますが、「見たい物自体と目を近づける」という原始的な方法があります。ですから、眼科で止められていなければ、弱視のお子さんが物に至近距離まで目を近づけることがあっても、「目が悪くなるから目を離さない」と伝える必要はありません。その距離が最も見やすいということです。

見たい物と目を近づけるためには、見たい物に顔を近づけたり、物を持ち上げて目に近づけたりする方法が考えられます。見たい物に顔を近づけるとどうしても姿勢が崩れ、首や肩、背中が痛くなり集中力が続きません。そこで、傾斜机や書見台を使うことで自然に見たい物を目に近づけられるようになります。もしくは、適正な机の高さから1段階高くしたり、3~4cm程度の厚みのある板や箱を机の上に置いたりする(滑り止めなどを敷いて)ことで応急的に物を目に近づけることができますので、移動教室先などではお試しください。

なお、拡大したからといって、はっきりくっきり見えるようになるわけではありません。(見え方は、お子さん本人にしか分かりませんが、おそらく「ぼやけて」「ピンボケの状態で見えていると考えられます)。あくまで、「拡大すると判読・判別できる」ということです。(参考右図)



### 配付プリントにもひと工夫を

☆ 配付プリントを作成するときは、次のような方法が考えられます。参考にしてください。

- △ A4 を2倍(200%)拡大すると、机いっぱいプリントになってしまい、扱いにくい。
- タブレットやノートPCで撮影し、撮影画像をピンチアウトして大きくして読み取る。
- △ **飾り文字** の輪郭がはっきりしなかったり、網掛けにすると見づらかったりする。
- 輪郭のはっきりしたシンプルな**飾り文字**を使用したり、**白黒反転**や**囲み**に替えたりする。
- △ 穴埋めは、( )とすると、行を目で追いにくく、読み誤りが増える。
- 穴埋めは、( )と下線を入れると、目で追いやすく、速く正しく読める。
- △ 図表があるときに、図表→文章の順に載せると、図表を見てから文章を読み、再度図表に視線を戻して確認することになり、時間がかかる。
- 図表があるときは、説明や問題文などの文章→図表の順に記載することで、何の図表であるかの予測を立ててから図表を見ることができ、理解が早まる。